

専用機器を必要としないバスロケーションサービスの実現

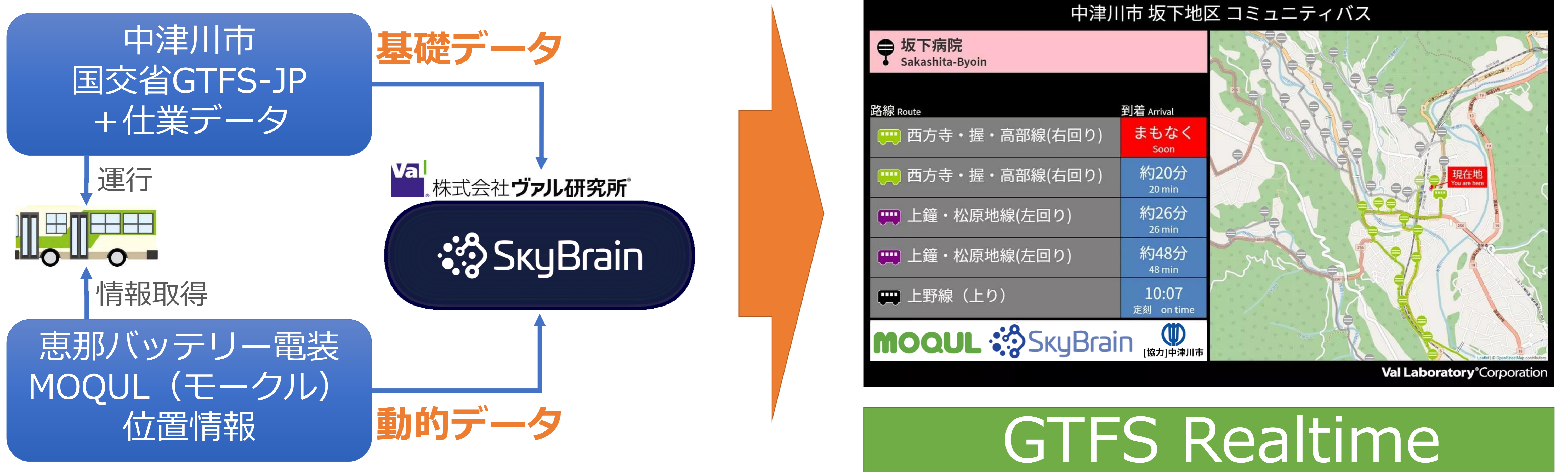
～病院の待合室をバスの待合所へ～

諸星 賢治 / (株)ヴァル研究所
 山口 功司 / 恵那バッテリー電装(株)
 柘植 良吾 / 中津川市

I. 実証実験の目的

- 既存資産を流用し、必要最小限のシステム構成でサービスを実現する
- 高齢者でも認知しやすい形でバスの情報提供を行う
- 中津川市が作成した「標準的なバス情報フォーマット(国土交通省が制定)」形式のデータを活用する

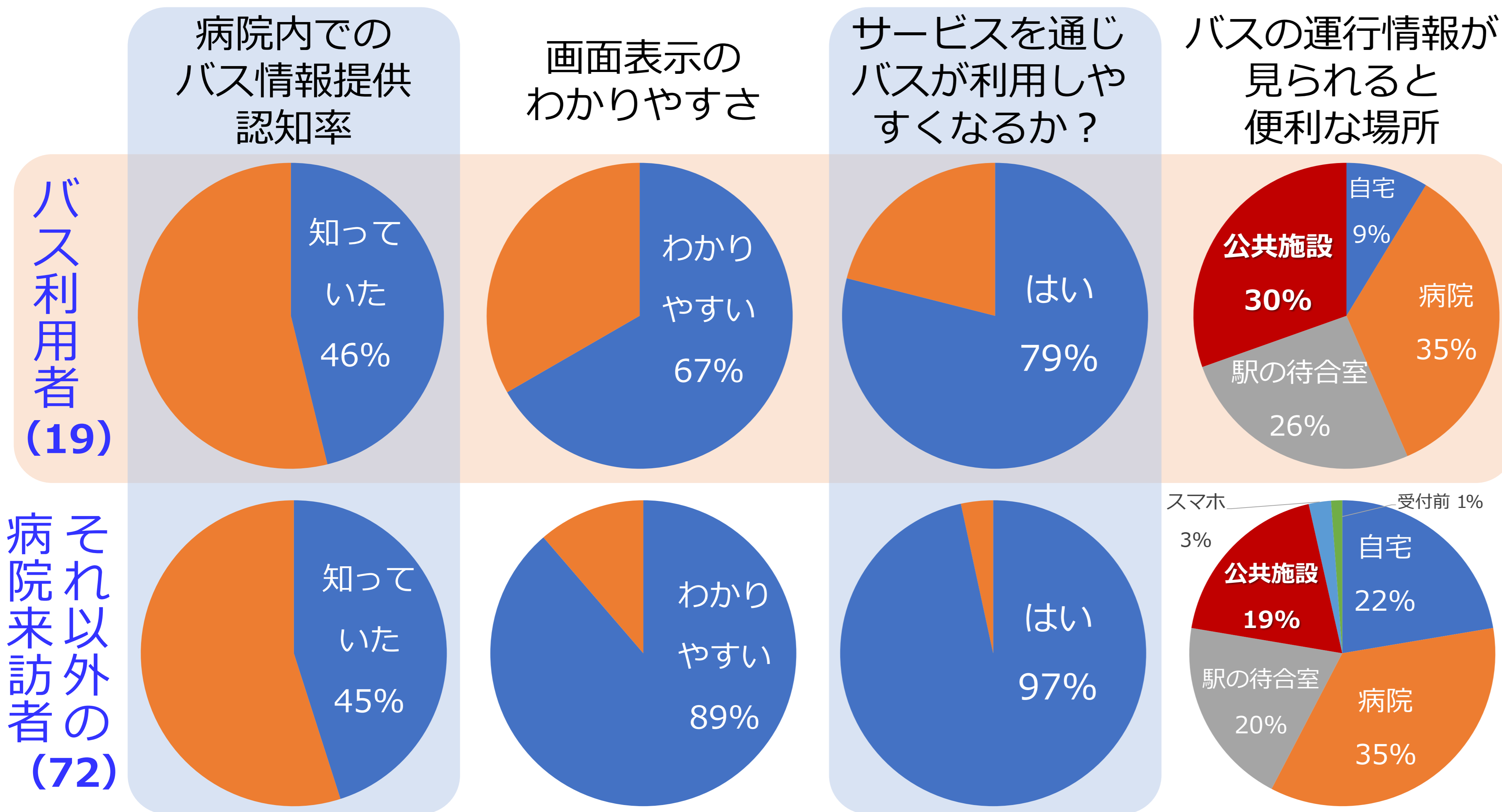
II. 実現したサービス



ポイント

- 位置情報は車両搭載のドライブレコーダーから出力される情報を流用
- GTFS形式に準拠したデータを元データとした為、世界標準の形式でもあるGTFS Realtimeの出力も容易に実現
- 病院の待合室にバスの運行情報が確認できるモニターを設置
- 音声での案内により、画面を見ていない方への案内も実現

III. アンケート結果



対象バス路線

岐阜県中津川市
 人口：79,030人 (2018年6月現在)
 面積：676.4 km²
 気温：2018年1月 日最低 **-10.1度**
 2018年7月 日最高 **39.2度**

坂下地区コミュニティバス
 運行日：月曜日～金曜日
 運行路線、本数：7路線 16本/日
 利用者数：10,580人 (平成29年度)



IV. 結論と今後の課題

- 利用者にとって十分な品質のバスロケーションサービスが、専用機器を導入せずとも実現できた
- 標準的なバス情報フォーマットのデータが、バスロケーションサービスの基礎データとして十分活用できた
- 今回の実証実験で行ったバス運行情報の提供方法には認知率で課題が残る
- 病院の待合室は、バスの待合所としても十分流用が可能である
- バスの運行情報が他の施設などでも見られるようになると、バスが利用しやすくなると感じる人は多い